

させることに限定し、ドリル的な繰り返しの学習は家庭での自学自習に任せること、つまり、これまでのように学校が何でも面倒をみるというのではなく、内容を厳選しながらスリム化していくことが重要なのです。そうして初めて、学校の独自性が発揮されるものと私は考えます。

◎ 出席報告

会員数	66名	出席率	函館北	1月6日	87.10%
出席	44名		函館東	12月29日	86.17%
欠席	22名		函館	12月24日	78.70%
他クラブ出席	10名		函館五稜郭	12月25日	100.00%
出席合計	54名		函館亀田	12月28日	74.07%
除外者	4名				

・テレフォンサービス（例会移動案内）電話23-2377番

次回・2月3日	「税あれこれ」
プログラム	函館税務署 署長 森本 清氏



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

1998～99年度 国際ロータリーテーマ

ロータリーの夢を追い続けよう FOLLOW YOUR ROTARY DREAM

新 博夫会長テーマ『明るく、楽しいロータリー』



1月20日卓話 佐藤 寿一氏

《第1714回例会》 第28号 1月27日（水）

本日のプログラム

「社会福祉協議会の役割について」

社会福祉協議会 高橋 和雄 常務理事

★会長 新 博夫 ★幹事 小笠原 孝

1998～1999 <第1713回例会> 第 27 号

1月20日の記録

◎司 会 新 博夫 会長 ◎斉 唱 奉仕の理想

◎ゲ ス ト 函館市立港小学校 校長 佐藤 寿一 氏

◎ビジター 札幌南R.C.高橋英明君、函館R.C.佐藤正三君・中島敏幸君、
函館東R.C.鎌田 剛君・明本修一君、
派遣交換留学生 澤田衣里さん

◎会長報告 新 博夫 会長

- 手続要覧を配りましたので、後で目を通して下さい。
- 2月20日 I. M. に先立ちホテルオークランドで移動例会を行います。本日で登録締切ですので宜しくお願いします。

◎委員会報告

- 交換学生委員会 野田 義成 委員長
オーストラリアへ交換留学生として派遣されることになりました澤田衣里（遺愛女子高1年）さんを紹介し挨拶を願います。
- 交換留学生 澤田 衣里 さん
3月からオーストラリアに行ってきますが、国際交流と友好に努めて勉強してきます。
- ローターリー情報委員会 森 秀樹 委員長
1月27日国際ホテルで情報集会を開催しますので、新入会員の方は是非参加して下さい。

◎幹事報告 小笠原 孝 幹事

- ロータリー適用相場が2月1日より現行122円から115円に変更します。
- 2月10日の例会は夜間例会に、2月24日の例会は2月20日(土)午前12時 I. M. 開催前に行います。
- 1998年版手続要覧が届きましたので配布します。
- 3月3日ソロプチミストの合同例会開催を予定しています。

◎親睦活動委員会 吉田 隆 委員

ニコニコBOX投入報告

- 新 会長……BOXに協力。
- 小笠原幹事…… ”
- 森(秀) 会員……佐藤寿一先生を歓迎して。
- 山下(輔)会員……新会員です。宜しくお願い致します。
- 澤田 会員……BOXに協力。
- 中野 会員……受付に新人が全員いましたので。
- 野田 会員……澤田衣里さんの派遣ありがとうございます。
- 松見 会員……誕生月です。ありがとうございます。
- 久保 会員……BOXに協力。
- 椎谷 会員……今年初です。宜しくお願いします。

◎卓話 「教育の今日的課題」 函館港小学校 校長 佐藤 寿一 氏

今、教育現場では、皆様ご承知のようにいろいろな課題があります。学校が大変な時、と私は考えています。従来進めてきた学校の在り方にも大きな見直しをしてきております。

まず、学校はこのままで良いのか、問われている学校ということであり、我が国は、明治以降約130年経過してきていますが、日本はこれまで

いろいろな課題を乗り越えてきました。とりわけ、太平洋戦争後、敗戦からの再出発とその復興は驚異的でありました。日本の学校教育は、世界のトップクラスであるとの高い評価を受けています（日本には世界一が3つあり、その1つに高校の進学率があります）。

しかし、その日本教育が、今問われているのであります。例えば、多くの関係者の努力にもかかわらず、校内暴力は後を絶たないし、いじめもなくなりません。不登校も増加の一途をたどっています。かつての貧しい時代に、学校に行きたくても行けないのは異なり、学校に来て欲しいと言われる中でもこの数です。勿論、不登校の要因が全て学校にある訳ではありません。学校以外にも家庭、保護者にもあると思います。しかし、学校にもその大きな要因があることを認め、これまでの学校を見直し、変えていくことが必要であると考えています。

では、何を換えれば新しい学校づくりになるのか、課題はいろいろあると思います。例えば、施設・設備の改善とか、校内の態勢の問題、教師と子どものコミュニケーションの在り方、2000年から始まる完全学校週5日制等々が挙げられますが、しかし、何と言っても、学校における緊急で中心的な課題は授業であると私は考えます。何故なら、学校の任務は授業をすることであると考えからです。授業を通して子どもたちの人格形成を図ることこそ、学校の任務であると思います。子どもたちは、学校で多くの時間を費やしているのです（小学校高学年1015時間、中学校1050時間）。

小学校では、この1015時間を教育課程の中で国の基準として週5日制により910時間と短くし、各教科・道徳・特別活動という3つの領域で進めているのですが、その特色として、以下の3点が挙げられます。

- (1) ほとんどが教室の中で行われている。
- (2) 教科書が用意されていること。
- (3) 教師が子どもに教える。

このことは、教師が教室の中で教科書の内容を教えるということが特色であると言っても過言ではありません。これまで学校は、伝統的にこうした授業を通して教育を行ってきました。それは、文化遺産の伝達や、国や社会の側からの教育には有効でした。とりわけ、我が国の追いつき追い越せの教育には有効であったと思います。特に、知識・理解や技能の習得には効率的であったと言えるでしょう。

これからの時代は更に変化が激しくなることが予想され、従来の教科の区分では今日的な社会のニーズに対応出来ないことが既に起こってきております。例えば、国際理解教育への対応（中・高・大学を通して10年間勉強するも日常会話出来ず）、環境教育、情報教育についても然りと考えます。このことは、子ども側からの発想に対応するには現在の学校教育の在り方では貧弱であり、社会の変化への対応が弱いという結果になっていると思います。今後は、子どもたちにもっと体験を通した授業を組み込むことが、これまで以上に大切であると考えます。その体験は、自然体験であれ社会体験であれ、これらは総合的な活動であり、各教科に分割出来ないものだからです。

これからの教育の方向を考えると、学校観の大転換を図る必要があると思います。具体的には、教育を学校だけで独占するのではなく、学校は教育のどの部分を受け持つのかを明確にすることです。因に、親が学校に期待していることは、「じっくり考える力をつけさせて欲しい」「基礎的な能力を身につけさせて欲しい」「集団生活を体験させて欲しい」「交際能力を身につけさせて欲しい」等のことです。このことは、(1)具体的生活習慣は家庭に任せ、学校では集団生活の良さを確認し、集団の中での人間形成を大切にすること、(2)知的な面では、教材の精選を進めじっくり時間をかけて基本的な思考力を身につけることを求めているということです。

学校での学習は、基本的視点やさまざまなアプローチの方法を身につけ